

豊橋市(北陸圏・中部圏ブロック)

【計画期間 21年6月～26年3月】

・江戸時代: 吉田城下、東海道の宿場町として発展
 ・戦後 : 愛知県東部(東三河地域)の中心都市として発展

○市民病院の郊外移転や大規模店舗の撤退等により、商業機能をはじめ中心市街地の都市機能が低下。

○豊橋市全体の人口は増加しているが中心市街地の人口は減少し、高齢化率は市全体の平均よりも高い。



○休日歩行者通行量(駅前商業ゾーン)

H10: 61,226人 → H19: 28,143人 (▲54%)

○平日歩行者通行量(生活商業ゾーン)

H7: 2,292人 → H19: 1,765人 (▲23%)

○小売業年間商品販売額

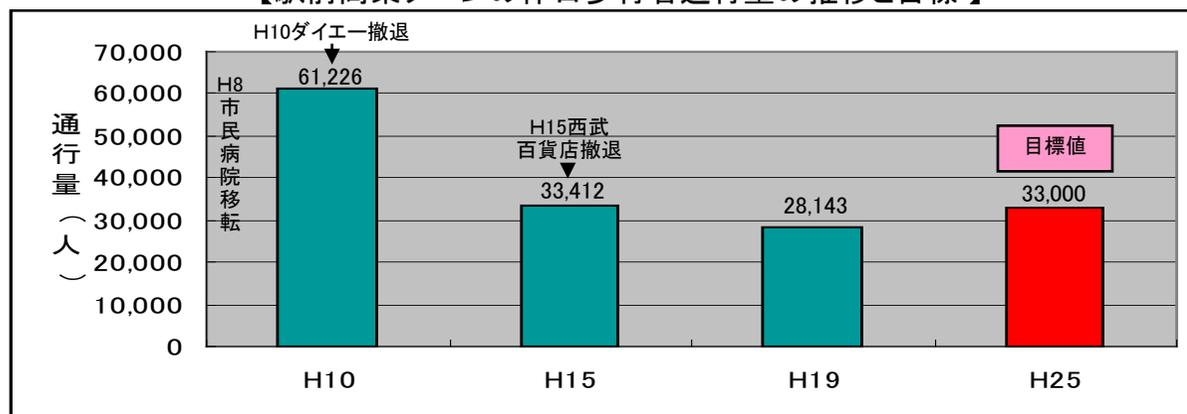
H6: 約1,212億円 → H19: 約584億円 (▲52%)

○居住人口

H8: 9,691人 → H20: 8,443人 (▲13%)

目標	指標	現況値	目標値(H25)
にぎわいの創出	駅前商業ゾーンの休日歩行者通行量	28,143人/日 (H19) <6調査地点合計>	33,000人/日
	生活商業ゾーンの平日歩行者通行量	1,765人/日 (H19) <3調査地点合計>	2,000人/日
商業の活性化	小売業年間商品販売額	58,432百万円 (H19)	58,500百万円
まちなか居住の推進	居住人口	8,443人 (H20)	8,700人 (H26)

【駅前商業ゾーンの休日歩行者通行量の推移と目標】



■新たな商業複合施設・文化交流拠点を核に中心市街地の魅力を向上させ、にぎわいの創出と商業の活性化を目指す。

⇒主要事業: ①豊橋東口駅南地区整備、②こども未来館交流事業、③芸術文化交流施設整備事業
 ④広小路一丁目南地区商業集客施設整備事業、⑤花園地区商業活性化事業

■高齢者や環境面に配慮した都市型住宅を供給して、まちなか居住の推進を目指す。

⇒主要事業: ④広小路一丁目南地区、⑥広小路三丁目B-2地区、⑦広小路三丁目A-2地区

豊橋市中心市街地活性化基本計画の事業概要

にぎわいの創出・商業の活性化

商業施設の整備

○豊橋東口駅南地区整備(①)

鉄道再編を含む土地区画整理事業にあわせ、JR貨物が所有地に**商業複合施設**を整備する。JR豊橋駅、豊橋鉄道新豊橋駅、既存商業施設(コラフロント)とペDESTリアンデッキで連結し、**駅から回遊しやすい一体的商業エリア**を提供する。隣接する芸術文化交流施設との相乗効果により、多様なにぎわいを創出する。



○広小路一丁目南地区商業集客施設整備(④)

広小路一丁目南地区優良建築物等整備事業による更新施設で**テナントミックス**を行い、商業施設としての魅力向上を図る。

○花園地区商業活性化(⑤)

地区に隣接するスーパーマーケットの売場拡充にあわせ、**商店街の環境整備**(ファサード統一・アーケード撤去など)を行い、快適で楽しく魅力的な商業空間を形成。



○商店街空き店舗対策

TMOが空き店舗を借り上げてテナントに転貸することで、バランスの取れた魅力ある商店街を再構築する。

文化交流拠点

○こども未来館の活用(②)

H20.7に開館した**こども未来館**と**地域の交流事業**により、未来館のにぎわいを周辺商店街に波及させる。



○芸術文化交流施設整備(③)

約800人収容のホールやアートスペース等を備える**芸術文化交流施設**を**PFI事業**で整備し、広域からの集客と交流の促進を図る。

○公共交通券(おかえりキップ)事業

事業参加店舗で買い物した人に、帰りの乗車券をサービスすることで、中心市街地へ買い物に行きやすくする。



まちなか居住の推進

優良建築物等整備事業で、低層部に商業施設、中高層部に高齢者や環境面に配慮した都市型住宅を整備。

○広小路一丁目南地区(④) <15階建、50戸>

○広小路三丁目B-2地区(⑥) <21階建、60戸>

○広小路三丁目A-2地区(⑦) <10階建、41戸>

